

タイトル	産官学連携における社会科学系モデルの探求特集にあたって(<特集II>産官学連携シンポジウム 産官学連携における社会科学系モデルの探求, 山田定市教授退職記念号)
著者	北海学園大学経営学部産官学連携推進委員会
引用	北海学園大学経営論集, 2(4): 193
発行日	2005-03-25

産官学連携における社会科学系モデルの探求 特集にあたって

北海学園大学経営学部は、産官学連携を積極的に推進している。本年度は、まず、「北海道発の企業家精神」というテーマで4回にわたりセミナーを実施した。自ら創業し成功を収めている経営者、創業したばかりの経営者や産官学に精通した行政マンを招聘し開催した。聴講者は毎回300名を超え、D20番教室は常に満席であった。質疑応答も極めて盛んで、刺激のかつ興味深い内容の講演が展開された。

本シンポジウムは、今年度の産官学連携の総決算ともいえるべきものであり、12月11日午後1時30分より「産官学連携における社会科学系モデルの探求」というテーマで実施された。内外から著名人を招聘し、基調講演とパネルディスカッションを実施した。

本シンポジウムの目的は、大学文科系研究者の知を実践の場においてどのように活用できるのか、その可能性と課題についてディスカッションするものである。理科系研究者の知の活用については、戦中戦後を通じて一貫してなされてきた。最近では規制緩和により理科系国立大学研究者の民間事業への積極的関与が可能になってきている。一方、文科系とくに経営学系研究者の知の活用については、ごく一部の大学において試行的になされているものの、本格化には至っていない。シンポジウムでは、こうした産学双方の溝を埋め、共通の理解のもとで、産学連携のあり方と、そこにおける官側の関与の仕方について説明

を試みた。

第一講演者である、清水聡明治学院大学教授には、消費者行動分析といった最も実践に近い学問領域から、企業との連携例についてご講演いただいた。これにより、経営学系研究者と企業との実際の連携の具体的なイメージとその有効性ならびに問題点が明らかにされた。第二講演者である、堰八義博北海道銀行頭取には、北海道企業が抱える問題点について、企業間ネットワークの情報中枢としての金融機関からの立場からご提起いただくとともに、産と官の連結点としての学のあり方についてご検討いただいた。

パネルディスカッションでは、北海道の技術系ベンチャー企業の育成といった立場から中島麻人ジャフコ北海道支社長、北海道の流通機構を再構築することで企業活性化の推進を主張する黒田重雄本学教授、経済インフラ整備の立場から浦忠幸北海道経済産業局産業部長が基調講演者とともに討論を展開した。これにより文科系研究者と企業、金融機関ならびに行政サイドとの連携による、産官学連携スキーマの基本的アイディアが創出された。

聴講者は400名を超え、極めて示唆に満ちた講演と白熱した討論が展開され、シンポジウムは、大成功に終わった。本号では、その全内容を掲載する。

北海学園大学経営学部産官学連携推進委員会
一同